
異界闘争記

夜天の主

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異界闘争記

【Nコード】

N0380Y

【作者名】

夜天の主

【あらすじ】

読んでみよ。さすれば答えは自ずと出てくるだろう（笑）

第一話 まさかの

ああゝ

自分は神谷御神だ。かみや みかみ

「神」って使いすぎだと思いが気にするな。

それよりも「みかみ」って名前が女っぽくて自分は嫌なのだ。

つーか自分はよく【男】にナンパされる。

一応言っておくが自分は男だ。

学力は自慢できるものではないが、人にはよくかわいいと言われる。

具体的にはまつげが長い、パツチリ二重瞼、色つやのいい唇、高い声、童顔（泣）などがある。

それに華奢な体格が相まって女と思われるのだ。

が、そういった人間は例外なく地に沈めてきた。

実は自分、有りとあらゆる武道や戦闘術を幼い日から叩き込まれてきた。

親が二人とも格闘家だと言うせいで。

まあそれが今役に立っているので気にしないでおっけい。

さてそんな自分がどこにいるかといつと…

うん…

知らない森の中です。

そうなった経緯を話すと長くなるのでまたそのうちに話すとしよう。

「おい。そこのお前。」

自分ですか？

「うん？」

振り返るとそこには青を基調とした服にプレートアーマーを纏った小さく可愛らしい少女が憤ましますぎる胸を張って立っていた。

「何か何って言われても自分にもわかんねーよ。」

「どづした？」

いやいやいやいや。

答えられない質問をしたのは君でしょうが。

「リディア隊長！」

声が出た方を振り返ると後ろから身長が高くスラッとした男が走ってきた。

「あ。アノン副隊長か？」

「おや？その少女は？」

プツン。

その言葉が聞こえた瞬間に自分は地面を強く蹴り、掌底を男の翠月に打ち込んだ。

「くっ、はっ！」

「なに！？」

「ぐっ！ツ！！」

見事に決まったな。

アノンと呼ばれた男は腹を押さえ地に踞っている。

自分はそれを冷やかな目で見下ろす。

「貴様っ！」

すかさず少女も飛びかかってくる。

自分もそれに合わせ後ろ回し蹴りを放つ。

さすがに隊長というだけあって、反応は早いようだ。

側頭部を狙った一撃を自らの腕で守っていた。

それでも勢いは殺しきれず吹き飛んで木に叩きつけられた。

「がはっ！」

空気が肺から漏れる。

「驚いたな。今のは両方とも意識を刈り取るつもりだったのに。案外しっかり鍛えてるみたいだね。」

隊長が木にもたれ掛かったまま悔しそうにこちらを見ている。

「きさま…何者だ？」

「自分は神谷御神。」

「……ミカミ？」

「っーかさ、副隊長さん？」

副隊長もこちらに視線を向ける。

「いや…自分に聞かれても。」

「……。」

暫しの沈黙。

「そういえば、腰にあるそれはなんですか？」

「ん？腰？」

「はい。」

ホントだ。なんかある。

「形状的には剣のようですが…？」

「いんや。これは刀やね。」

「刀？」

「そう、刀。」

だってそういうしかないじゃん。

「……。」

なんで毎回この空気？

「まあ、詳しいことは本国で聞かせてもらいます。」

「そっ？？」

ん？…ってそういえば。

「自分に拒否権は？」

「ありません。」

やっぱりね。

まあいいや。

また今度考えよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0380y/>

異界闘争記

2011年10月30日00時08分発行